

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)サープラザ豊川新店舗	階数	地上2階
建設地	愛知県豊川市豊川駅前土地区画整理事業78街区(南地、79街区(南地)	構造	S造
用途地域	第二種住居地域、準防火地域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所、物販店、飲食店、等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年5月10日
敷地面積	4,222 m ²	作成者	株式会社竹下一級建築士事務所 竹下 昌臣
建築面積	1,551 m ²	確認日	2019年5月10日
延床面積	2,085 m ²	確認者	株式会社竹下一級建築士事務所 竹下 昌臣



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	94%
③上記+②以外の	94%
④上記+	94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	2.4
温熱環境	2.3
光・視環境	4.0
空気質環境	2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.3
耐用性	3.2
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.1

生物環境	3.0
まちなみ	5.0
地域性・	4.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の	4.5
自然エネ	4.0
設備システ	2.4
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

水資源	3.4
非再生材料の	3.8
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化	3.2
地域環境	3.0
周辺環境	3.1

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

3.2

③敷地内の緑化

3.0

外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)

36.0 %

建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)

0.0 %

②資源の有効活用

3.4

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

3 対応性・更新性				3.1	0.29			-	3.1
3.1 空間のゆとり				2.8	0.31			-	
1 階高のゆとり				2.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			事)物0.1以上0.3未満	4.0	0.40			-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			-	
3.3 設備の更新性				3.4	0.38			-	
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性			事)物)仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕可能	5.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性			事)物)仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕可能	5.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.31			-	4.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		3.0	0.30			-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	周辺の主要な視点場からの良好な景観形成に配慮	5.0	0.40			-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30			-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	歩道状空地、屋根付きテラスの計画、夜間照明の設置	5.0	0.50			-	
3.2 敷地内温暖環境の向上				3.0	0.50			-	
LR 建築物の環境負荷低減性								-	3.4
LR1 エネルギー					0.40			-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m = 0.85	4.5	0.28			-	4.5
2 自然エネルギー利用			ハイサイドライトによる自然採光の利用	4.0	0.21			-	4.0
3 設備システムの高効率化				2.4	0.31			-	2.4
4 効率的運用				3.0	0.21			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
LR2 資源・マテリアル					0.30			-	3.6
1 水資源保護				3.4	0.15			-	3.4
1.1 節水			節水コマ、自動水栓、省水型機器を主要水栓の過半に採用	4.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			-	3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	陶磁器質タイル(トイレ床)、ボード(天井仕上)、断熱材(土間床)	5.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+LGS+仕上とし躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロア採	5.0	0.24			-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
LR3 敷地外環境					0.30			-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	運用時のLCCO2排出量を低減	3.2	0.33			-	3.2
2 地域環境への配慮				3.0	0.33			-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温暖環境悪化の改善				3.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車スペース、荷捌き用駐車施設の確保、出入口への配慮	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33			-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」のチェックリストの過半を満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の一部を満たす	4.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

重点項目スコアシート

(仮称)サーラプラザ豊川新店舗

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10
② 資源の有効活用			3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09
			外構緑化:36%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み})\text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	地域の象徴となっている豊川稲荷の門前町を形成している町屋の連なりをオマージュした建物形態としており、色彩計画を含めて地域の良い景観形成を意識した建物としている。 町のつくられ方に習い、建物の各出入口となっている敷地内の中通り側には深い軒庇を出し、雨や日差しを遮る役割を持たせ、人の集い場として透明度を持たせている。
Q1 室内環境	ショールームやレストラン、合同オフィスなど妻側ファサードのガラス部は、ペアガラス+ブラインドを採用し、熱負荷軽減を図っている。
Q2 サービス性能	建物内部においても持続可能な建築を目指し、極力、内部をつくり込まず可変性・更新性に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地の随所に施す植栽が直射日光を和らげ、木陰をつくり、葉の蒸散作用などにより快適な外部環境とすべく計画している。
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や節水コマ、省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 リサイクル資材を採用するなど非再生性資源の使用量削減に配慮している。
LR3 敷地外環境	建物運用時のライフサイクルCO2排出率の抑制し地球温暖化へ配慮している。 適切な量の駐車場を確保し利便性に配慮、駐車場の出入口の位置を分けるなど交通負荷の抑制に配慮している。
その他	